

ご存知ですか？ 市民ボランティア活動補償制度

市民の皆さん安心してボランティアなどの市民活動を行えるよう、市が保険料を負担して、万が一の事故に備える制度です（市で一括加入していますので、事前申し込みは不要です）。

対象となる方

宇都宮市民または市内でボランティアなどの市民活動を行っている方（活動の指導・運営に従事している方）。

※イベントや行事における来場者、受講者等は対象なりません。

補償内容

<傷害事故>

活動中に、急激・偶然・外来的事故によりケガをした場合



<賠償責任事故>

活動中に、過失により第三者の生命、身体もしくは財物に損害を与え、法律上の賠償責任を負った場合

事故発生の際には、事故の日から30日以内にみんなでまちづくり課へご連絡ください。

詳細のお問い合わせと事故発生のご連絡は

宇都宮市 自治振興部 みんなでまちづくり課 市民活動グループ（電話 632-2886）

《市のホームページでも「市民ボランティア活動補償制度」の詳細が見られます》

新分別収集の注意点（プラスチック製容器包装に入れないで！）

今年4月より、新たに加わった資源物のプラスチック製容器包装に間違ったものが混入しております。混入すると取り除くのに大変手間がかかるとともに、機械の故障につながることから、正しい分別をお願いします。

【混入しているもの】

●ペットボトル

ペットボトルは資源物「ペットボトル」で出してください。



●プラスチック製の商品そのもの。

（おもちゃ、ポリタンク、レジャーシートなど）商品そのものは、焼却ごみに出してください。

●使い捨てライター、乾電池

「危険ごみ」に出してください。

火災の危険があり、混入すると非常に危険です。

●梱包用バンド、ビニールひも

焼却ごみに出してください。

宇都宮市環境部ごみ減量課

電話 632-2414 Email : u0716@city.utsunomiya.tohigi.jp

編集後記

自治会の加入率が低下しています。このまま加入世帯が減っていくと、私たちの地域は私たちが守る住民自治に大きな影響を与えることになります。

2頁で、自治会の防災活動を取り上げましたが、突然の災害では、災害直後の組織的活動なくして、災害から生命や財産を守ることはできません。「隣の人は誰ですか！」では救助や支援に手間取り、尊い命を落とすことにもなりかねません。

自治会で、防災について話し合うことを提案していますが、この話し合いでは、真っ先に「自治会に入っていない、あのアパートのおばちゃんはどうするの！」との意見が出てきます。

こんな話し合いも仲間づくりも大切です。日ごろからの自治会加入のお勧めをお願いします。

みんなの力で魅力ある自治会づくり

平成22年10月

自治連だより 第40号

発行: 宇都宮市自治会連合会
〒320-8540 宇都宮市旭1丁目1番5号
宇都宮市役所 みんなでまちづくり課内
TEL・FAX(兼用)(028)632-2289

平成22年度「定期総会」・「新任自治会長研修会」を開催しました



4月28日、宇都宮市役所において平成22年度の当連合会定期総会を開催しました。佐藤宇都宮市長・今井市議会議長を来賓に迎え祝辞をいただき、その後、前年度事業報告・決算報告、22年度事業計画・予算について審議し、全議案が可決承認されました。

宇都宮市自治会連合会は39の地区連合自治会で構成され、地区連合自治会を構成する単位自治会数は現在、793自治会です。

また、6月27日に新任自治会長研修会と同じく宇都宮市役所において開催し、自治会活動の講義と連合会執行部との意見交換を行いました。

自治会と宗教活動の分離や自治会費の集め方など、多数の意見や質問がありました。これらの意見を参考に、運営してまいります。



宇都宮市自治会連合会役員

《敬称略》

会長	佐々木英明	(陽東)	理事	荒井 文男	(昭和)	理事	金田 貞夫	(緑が丘)	
副会長	森崎 常正	(御幸)	池田 正之	(城山)	關 平	(峰)	副会長	森崎 常正	(御幸)
	齋藤 邦博	(五代若松原)	木村 昇二	(姿川)	木村喜四郎	(宮の原)		齋藤 邦博	(五代若松原)
	中田 隆人	(清原)	宇賀神源泉	(雀宮)	手塚 毅	(御幸ヶ原)		中田 隆人	(清原)
	菊池 武美	(富士見)	入澤 荘介	(中央)	島田 弘二	(明保)		菊池 武美	(富士見)
会計	永井 久司	(東)	竹之内英明	(戸祭)	武田 繁雄	(築瀬)	会計	永井 久司	(東)
	平野 勝	(篠井)	大野 光雄	(富屋)	篠崎 實	(陽南)		平野 勝	(篠井)
	北條 信男	(宝木)	中野 計	(豊郷)	森山 和則	(横川)		北條 信男	(宝木)
理事	小野 義一	(石井)	津川 辰雄	(西)	安野弥一郎	(陽光)	監事	小野 義一	(石井)
	板橋 英忠	(泉が丘)	足澤 良一	(錦)	川津 昭夫	(上河内)		板橋 英忠	(泉が丘)
	今井 源一	(今泉)	小林 久夫	(西原)	山根 登	(河内)		今井 源一	(今泉)
	入江 基男	(国本)	菊地 昭三	(平石)	木下 誠治	(錦)		入江 基男	(国本)
	横山 和夫	(桜)	吉田 幸雄	(細谷)	岸 錦	(峰)		横山 和夫	(桜)
	松本 晋	(城東)	坂本 保夫	(瑞穂野)				松本 晋	(城東)

自治会の防災活動

地震や台風、近年においては異常気象によるゲリラ豪雨など自然災害はいつ起きるかわかりません。その災害の被害を少なくするため、常日頃からの備えの重要性は十分理解され、自分の身は自分で守る備えはたくさんの方が準備されていることだと思います。



しかし、実際に被災し、援助を必要としても、行政機関などの援助が来るまでには少なからず時間がかかり、その間に被害は大きくなってしまいます。被害を最小限にするということは時間との戦いで、被災直後（初動活動）が重要となります。初動活動とは隣近所の安否確認や負傷者の救護などで、まさに近隣同士、自治会でなくてはできない活動です。

万一被災した場合を想定し、初動活動について話し合い、災害に対する意識を高め、近隣同士・自治会で活動の準備をしていただくことをお勧めします。

机上訓練を実施しましょう

机上訓練とは、会員の皆さんが集まり、防災について話し合うことを言います。一定の非常災害を「机の上で想定」し、話し合いの中から「現状の把握」や「課題の抽出」を行い、対応策を見つけ出します。



この作業から、自治会や班の範囲の確定・住民の把握・必要な資機材・役割分担や連絡方法など課題が見えてきます。

これらをまとめて災害対応マニュアルを作成しましょう。

自治会の非常災害に対する役割は……

- ・日々の広報・啓発を通じて、個人の備えを支援する。
- ・机上訓練を通じて、災害対応のマニュアルを整備し、突然の災害に備える。

災害が起きた時……

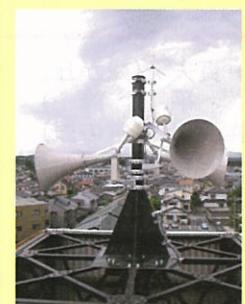
- ・安否確認など、被災初期の初動活動を実践する。
- ・行政機関・団体に正確な情報を提供する。

被災しないことが何よりですが、隣近所の助け合いがいざというときは頼りになるものです。



地域を守る防犯無線

御幸ヶ原地区連合自治会・御幸ヶ原まちづくり協議会



御幸ヶ原地区では、突然の事件や災害などの情報を瞬時に地域へ知らせることができるように防犯無線を設置しました。

事件や災害を未然に防ぐためには、各個人の日頃からの備えが大切ですが、さらに安心して暮らせるよう地区として防犯体制の整備に取り組みました。

設置に向けて「防犯無線運営委員会」を立ち上げ、設置場所の検討や設置許可、費用の協力依頼、運用方法など多くの課題を協議し、地域住民の理解と協力を得て、平成21年12月に第1号のスピーカーを御幸ヶ原小学校屋上に、第2号を今年度6月にスーパークリエイティニ御幸ヶ原店の看板に取付けました。

これまで不審者情報や行事のお知らせなどを放送し、午後5時には子ども達の帰宅の合図《家へ帰ろうコール》として「赤とんぼ」の音楽を流し、活用しています。



頑張っています！

自治会いろいろ♪

一 加入率100%は仲間作り — 関堀町上自治会 会長 郡司 敏男

代々、この地に住む世帯は自治会の加入は当然なことでしたが、近年は開発分譲されて新しく入居してくる若い世帯も多くなりました。

そこで、新住民の自治会加入促進策として役員の訪問活動を始めました。ただ、声をかけるだけという活動ではなく、自治会のことを理解・納得してもらうことに務めました。ここに住む全ての人の理解と協力でつくられる地域のまちづくりに参加をし、仲間になって欲しいと思い、何度も足を運んでお誘いました。

その結果、加入率は100%になり、行事や活動を地域一体で行っています。当然、子ども達も多くなり、子ども会の活動も活発で積極的に公園のごみ拾いや花壇の管理などを行い、地域内の環境美化に貢献してくれています。



地域には観音堂と指定無形文化財・関堀の獅子舞があり、保存と継承をしています。保存会のメンバーは高齢になり、若い世代に受け継いでいくことがこれからの課題になっていますが、新しく会員になられた方々の第二・第三の故郷の誇りとなるよう、地域全体で大切に継承していきたいと思います。

一 現代版「寺子屋」で健全育成 — 築瀬10丁目自治会 会長 佐藤 尚男

会員の高齢化や児童数の減少という社会になりつつある今、築瀬10丁目自治会では、安全・安心で潤いのある地域力の向上を目指して活動をしています。

そのひとつとして「声かけ、あいさつ運動」の実施です。この運動によって仲間としての意識が再認識され、地域の連帯感が醸成されました。さらに地域内の不審者発見や犯罪防止につながるなど防犯意識が高まり、地域全員で地域を守る体制ができました。

また、この地域を担う子ども達の健全育成を目的に、平成21年に自治会集会所を利用して児童の居場所「寺子屋」をつくりました。授業が終わった子ども達は寺子屋に集まり、当番の保護者や自治会員が付き添い、勉強会を開いています。勉強会の他、休日にはレクリエーションを行なうなど、学習力の向上や育成に寄与しています。

やがて子ども達が大人になった時、この寺子屋を思い出し、地域に見守られて育ったことを感じ、地域で活躍してくれることを願っています。

これまでにも安全で安心して暮らせるよう環境を整え、住民のつながりを大切にしてきましたが、今後も住んでよかったと思える地域を目指して、自治会活動を行っていきます。

一 家族の様な自治会・地域を目指して — 宇都宮大学南自治会 会長 小倉 富行

我が宇都宮大学南自治会は、名のとおり宇都宮大学の南に接し、文教のまちとして誇る峰地区にあります。大学とはこれまで懇談・懇親を深め、留学生との交流会等の行事に参加をすると、良き隣人関係を築いてきました。

さらに平成18年には宇大キャンパス内に「財団法人峰陽会宇都宮大学まなびの森保育園」が開園し、園長から保育園行事等の協力の依頼を受けました。大学を囲む峰第二自治会・峰第三自治会・平松町自治会にも加わって頂き、水鉄砲・ゴム輪銃・凧・船等の物づくりや園児と一緒に給食をいただくなど交流を続けています。

また、大学と保育園で開催する峰ヶ丘夏祭りでは実行委員となり、地域にチラシを回観して住民の参加を呼びかけ、賑やかなお祭りとなり大変喜ばれています。

これからも、地域住民と宇大・保育園が一体となって、明るく安心安全なまちづくりに取り組み、親睦を深め温もりのある家族の様な自治会・地域にしたいと思っています。

